



高山西ロータリークラブ

例会報告

第 2 6 3 0 地区 岐阜県 濃飛分区 創立 1 9 6 6 年 1 月 1 5 日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 大垣共立銀行 高山支店 4 F
- 会長 古橋 直彦
- 幹事 遠藤 隆浩
- 会報委員長 塚本 直人



氷点下の朝散歩 蜘蛛手 康介

<会長の時間>

予定が立て込んでおりますので、本日の会長の時間は割愛させていただきます。

<幹事報告>

- ◎濃飛分区次期ガバナー補佐より
 - ・濃飛分区次期会長・幹事懇談会開催のご案内
 - 日時 5月15日(日) 11:30~
 - 場所 シティホテル美濃加茂
- ◎ロータリーの友事務所より
 - ・2016-2017 年度版 ロータリー手帳お買い上げのお願い
 - 1部 600円(税別) 5月下旬出来上がり予定
 - 申し込みは2月19日(金)までに事務局まで
- ◎高山市社会福祉協議会より
 - ・平成27年度高山市社会福祉協議会第3回評議員会の開催について
 - 日時 3月17日(木) 午後2時より
 - 場所 総合福祉センター 3階作業室
 - 議案 平成28年度事業計画、平成28年度予算、定款一部改正 等
- ◎高山デンパー友好協会より
 - ・第50回パボ加進デンパー・ブロック応援ブリックエイグについて(ご案内)
 - 日時 2月8日(月) 8:00~ *試合開始は8:30~
 - 会場 高山市役所4階中会議室

<受贈誌>

(株)クマヒラ(抜萃のつくりその七十五)、台北市松年福祉會(玉蘭荘だより)、高山市文化協会(広報高山の文化、高山メセナメイト)、和光(ロータリーカタログ)

<出席報告>

区分	出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
前々回	34名	0名	34名	41名	82.93%
本日	32名	-	32名	42名	76.19%

<ガバナーエレクト挨拶>

国際ロータリー第2630地区
ガバナーエレクト

剣田 廣喜 様



<本日のプログラム>お祝い



◎会員誕生日

左より (当日欠席) 鍋島 勝雄 2. 21
遠藤 隆浩、山下 直哉、折茂 謙一、鴻野 幸泰、黒木 正人
2. 2、 2. 3、 2. 7、 2. 13、 2. 16

◎夫人誕生日

田中 晶洋 晶 子さん 2. 24
杉山 和宏 啓 美さん 2. 19

◎結婚記念日

田邊 淳
H 6. 2. 26

(当日欠席)

岡田 賛三 S48. 2. 10
杉山 和宏 H15. 2. 23

◎出席表彰

なし

◎在籍周年記念表彰

なし

◎3ヶ月表彰

・伊藤 松寿 ・井辺 一章 ・杉山 和宏 ・田中 武
・山下 明 ・米澤 久二



新会員挨拶

株式会社スカイワールド
代表取締役社長

榎坂 純一



世界へのプレゼントになろう

例会報告



筆頭推薦者：阪下 六代

榎坂さんは、昭和57年12月17日生まれの当年33歳です。

新宮小学校、松倉中学校、高山西高校、愛知教育大学、

静岡大学大学院を順次卒業され、平成19年4月に株式会社数理計画に入社されました。平成23年4月に父上の経営される株式会社スカイワールドに入社され、同26年1月に同社の代表取締役社長に就任され、現在に至っています。

血液型はB型で、趣味は読書ということです。ご家族は、奥様の真弓さんと3歳のお嬢さんがおられます。

抱負としては、「会社を通して高山地域の発展に尽力したいと考えております。」とのこと。

S. A. A担当例会

副S. A. A 大村 貴之

本日委員長の駒手がお休みですので、代わってゲストの下田 学様についてご紹介させていただきます。



昭和54年6月15日生の36歳、片野町のご出身です。

略歴は平成16年3月 愛知県立大学外国語学部卒業

学生の頃より広告代理店にて新卒採用イベントの企画に携わりつつ、個人事業主として大学・企業等で研修講師を行う。

平成16年4月 広告代理店入社

営業職として、園内外大手企業から小規模店舗まで業種問わず約1000社の新卒採用・中途採用の支援を行う。

平成19年4月 広告代理店退職、5月 株式会社パソナキャリア(現株式会社パソナ)入社

官公庁向け企画営業として、厚生労働省・経済産業省・都道府県が行う就職支援・企業の採用支援等の企画立案を行いつつ、東京都・千葉県・岐阜県・京都府などで就労支援事業所を運営。また、民間企業での管理職研修・営業研修・新卒研修の企画及び講師業務、一般の求職者向け就職支援研修、障がい者向け就労支援研修の企画及び講師業務を行う。

平成27年10月 株式会社パソナ退職

平成28年1月 金子一義事務所入所

以上です。

これまでのご経験を基に「地域にあるべき人材育成」についてお話しさせていただきます。よろしくお願ひ致します。



金子一義事務所秘書

下田 学 様

ただいまご紹介いただきました、下田学と申します。一昨年、地元であるこの高山市に戻りまして、縁あって、現在、金子一義事務所にて秘書として勤務しております。この度、私のような者が高山西ロータリークラブ様でお話しさせていただけることに至極恐縮しておりますが、頂きましたお時間を頂戴いたしまして、前職にて経験してきました「人材育成」と、そこから見えてきたいま地域にあるべき「人材育成」の姿についてお話をさせていただきます。

まず、私の自己紹介として経歴についてお話させていただきます。高山市片野町に生まれ、高校を卒業するまではこの高山に住んでおりました。大学卒業後は広告代理店に就職し、企業様に対する人材採用のご支援をさせていただきました。その会社では3年ほど勤務し、その後パソナという人材紹介・人材派遣を行う会社の官公庁事業部にて、厚生労働省や各都道府県が行う就職支援事業の企画運営を担当いたしました。若者の戦力不足や採用が困難と言われる中で、まずは、戦力とするための一つの策についてお話しさせていただきます。

官公庁事業部へ配属され最初に企画した事業が、この地、岐阜県で行った事業です。当時2009年はまだ景気も回復しておらず、失業率も非常に高い状態でした。その中行われたのは、年齢関係なく新卒未就職からシニアまで、主に長期失業中の方に対して毎日6時間、計4ヶ月ほど研修を行い、就職に結びつけるというものでした。この事業では、平均1年半就職活動中にある求職者を数ヶ月で社会復帰させよというもので、参加された多くの方がこの研修に参加される前に何十社も応募をされてきても、なお社会復帰できていなかったということから考えれば、単に不況だから就職できないというわけではありませんでした。

当初こういう方は採用しませんと仰る企業様は多くありましたが、人材が大企業に集中していることから考えれば、育てなくてもパフォーマンスが高い方を採用するような狙い方ではなく、ポテンシャルを見極め、如何にしてポテンシャルを引き上げるかが、今の時代の中小企業において最も大切な育成姿勢だと思います。

まず私の研修事業を利用した求職者がなぜ就職できないで居たのかということについて、のちに分析ツールを用いて明らかにしたところ、こちらにございますように、「会話力の弱さ」「主体性・積極性・スキルの不足」など様々な要因が見られました。このようになかなか就職できない理由にはさまざまです。それを体系化した結果、彼らの状態の対極にあったのが、経産省が提唱した「社会人基礎力」という社会で貢献できる人材の要件でした。

社会人基礎力とは、大きく3つのカテゴリーに分かれ、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力となっています。経済産業省で平成16年に既に研究結果が出ておりましたが、チームワークや働きかける力なんて座学で学べるようなものではありませんよね。なので、経産省も厚労省も各自治体でもこれらに応じた育成プログラムができていませんでした。

そんななか私が作ったのは、考えて考え抜いてもらう研修スタイルで、求職者のモチベーションを大事にし、2人3脚で疾走するスタイルのご支援でした。社会人基礎力を構成する12の要素は、先ほど見ていただいた通り、座って話を聞いて身につくものでもなく、テクニックでもありません。就職支援の業界自体はテクニック主導型で、カウンセリングのみ、求人はあ

世界へのプレゼントになろう

例会報告

るものの中で選ぶというスタイルです。ですので、業界的なやり方をしては課題解決にならないわけです。

さて、研修プログラムで大切にしたのは、先ほども申し上げた通り、現状のテクニック主導のご支援からの脱却で、社会とかかわる力を磨くための人材育成でした。そのため、カリキュラムでは、

- ・実践的なビジネスマナー
- ・労働市場の理解
- ・ビジネス基礎
- ・自己理解
- ・ビジネス実践
- ・課題解決型研修

を軸に研修を行ってまいりました。

この中で最も重視したことは、課題解決型研修です。失業者同士で世代関係なくチームを作り、一つの課題を与え、議論してもらい、プレゼンテーションを行うというシンプルなものです。ただし、9割9分の方がプレゼン資料を作った経験もなく、仲間と考えたことを人前で発表するといった経験もない状態でした。

なぜこの課題解決型研修を重視したのかという面についてお話しさせていただきます。

長期失業者の多くは自己中心的な考え方や他者とのかかわりを避けることで自らの殻に閉じこもる傾向が多く見受けられます。そのような状態の方は、会社の将来がどうか、地域経済がどうか、地域の抱える課題がどうかであるとか、あまり考えられず、会社や地域との共存などできる状態にはありませんでした。つまり会社では、言われたことや、やれることしかやらず、地域では関わりを持つとさえできないということです。その結果、自分のいまに対して自己中心的な選択をするしかなく、単に将来に不安を感じているものの、例えば介護や年金などこれから自らに降りかかる問題については深く考えていない傾向にありました。そのような方々に、最も効果的な研修が「課題解決型研修」でした。課題解決型研修とは、身の回りにある社会的課題に対して考え、議論し、社会において自分はこうしたらよいかという動機づけをするためのグループワークです。

完璧な解決策を求めるための研修ではなく、地域の課題がこうだから自分自身も他の方同様に必死に働く必要があるという、働くための動機づけをすることが目的です。

研修のテーマとしては「地域が抱える問題」や「年金問題」などという研修生がまさに今後目の当たりにするテーマを取り入れ、俗にいうPDCAを用いて何度も何度も課題に挑戦してもらいます。それを繰り返すことで、目の前にあることを深く掘り下げ、互いの意見を尊重し、自己中心的な考え方の脱却を図り、他者の前で堂々と意見を言えるようになってきます。

研究発表では、岐阜県庁職員や労働局職員に評価委員となっていたいただき評価していただきました。仲間ではなく一定の知識を持つ第三者に良い評価を頂けると人はやる気が出てくるものです。すべての求職者が達成感に満ち溢れ、また、自らの考えを堂々と発表できたことに自信が湧き、自分以外のためにもなるとしても働かなきゃという動機が芽生えてきました。

ここまでくれば、あとは就職活動を進めていくだけです。会社について下調べをし、自分であればどう貢献できそうか、これまでの経験で何が生かせるかを考え、自信をもってPRをしてくることができるようになっており、大半の方が数社の面接で就職が決まりました。

大したことではないかと思われるかもしれませんが、研修施設にきた求職者の大半が研修開始までに10社から20社は選考に落ちている状態で、その多くが書類選考で落ちている方々

だったことを考えると実は大きな変化なのです。実際に研修生を採用していただいた企業と話すことも多くありましたが、もともとは経験者重視で転職回数の少ない方を採用したいという企業も、面接いただいたところ採用となるケースが多くありました。採用していただいた理由を伺ったところ、これまでの経験よりも「人柄」「前向きさ」「熱意」「会話力」などが優れているという点でした。

ここまでの話をまとめますと、

- ・若者の抱える就職困難要因の多くが、内面的なものである（主体性の弱さ、会話力の低さなど）。

- ・内面的な課題は克服可能である。克服を経て武器（強み）とすることもできる。

- ・座らせて教える研修には限界がある。

- ・一緒になって考えて彼らの意見を尊重する。

- ・相談できる環境づくり、親身なアドバイス、自走できるようにコーチングを行うことが必要。

という5つのポイントが若者の人材育成において大事なポイントであるといえます。

いま、前職を退職して1年以上が経過しましたが、長期失業者の抱える課題は依然変わってきていないようです。当時より考えていたのが、今困っている方をご支援する一方で、社会人基礎力を養う研修や課題解決型研修の人材育成手法を、失業者ではなく、大学生や高校生に対して行い、水際で止めるようなことができないかということでした。

現在の仕事に就き、様々な方とお会いさせていただいたのですが、まさにこれを実践されている高校がありました。それは岐阜県内にある可児高校でした。もしかしたらご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、可児高校では数年前から課題解決型授業「アクティブ・ラーニング」というものを導入してきました。アクティブ・ラーニングとは、「思考を活性化する」学習形態を指します。今まで学校教育で行われていた詰め込み型の授業ではなく、例えば、実際にやってみて考える、意見を出し合って考える、わかりやすく情報をまとめ直す、応用問題を解く、などいろいろな活動を介してより深くわかるようになることや、よりうまくできるようになることを目指すものです。文部科学省がグローバル化や少子高齢化などの急速な社会情勢の変化に対応した高校改革を推進するために教育指導要領に盛り込み、昨年からは全国でスタートしている新たな教育手法です。しかしながら、多くの地域でこれをどのように進めてよいかわからないという声も多く、いまだ進んでいない地域が多くみられます。

私の就職支援においてお話しした通り、若者は単に就職できないのではなく、会社や社会で活躍したいという動機を持った方が減っているということにありました。そうなってしまった一つの理由に、地域コミュニティの崩壊が影響しているといわれています。

元来、子どもは段階的に社会とのかかわり方を覚え、大人へと育っていきます。よく言われる話ですが、小学校低学年までに子どもの学力は決まるといわれます。座って人の話を聞く力というのはそのころまでに養われるからです。いまでは親や家族と過ごす時間が減り、親の言うことも聞かない子供が多くなります。そのように育ってしまうと、小学校に入ったら先生の言うことを素直に聞くことも難しいのは当然。そうなれば学力に影響も出てきてしまいます。

例会報告

一方で、核家族が増えたことと、近隣づきあいを面倒だと思う親が増えたことや、子供でもインターネットで何でも調べられるようになったことで、地域の大人との関わりがなくなり、学校以外の大人とまともに関わるのが社会に出たときになってきています。だから大人とどう話していいかわからない方や何を質問したら理解が深まるかわからない方が多いんです。だからこそ、未来のこの地を背負って立つ方を増やすには、まずコミュニティの再生がカギになっているといえます。

ご存じの方もいらっしゃると思いますが、2021年にはセンター試験が廃止され、これまでの知識を測定するような試験から、思考力・判断力・表現力や、主体性を持って多様な人々と協働する態度などを測定する部分に重きが置かれるようになります。経済界の要望する人材の輩出、世界と対峙できる人材の輩出を目的としております。大学入試改革に対応するには、地域に視野を広げ、生涯学習的な視点を持ち、「多様な大人が地域のリアルな課題を解決する活動にALを導入し、そこに高校生も参加させる」ことをふまえた上で、高校では「地域課題を解決する活動への接続性を意識したAL型授業を行う」という協働が、必須と考えます。実際、活動を経験した高校生は「正解のない問題に挑戦するのが楽しい」「問題をとりまく多様な関係者が協力しあえば活路は見いだせる」という感覚を持ったそうです。「高校生・学校・地域が揃って活力を回復できるか、揃って疲弊の度を増すかは、高校と地域がALに関して適切な協働を実現できるか否かにかかっている」といえます。「地域を担う人材の育成」を本気で考えるなら、その土台として「地域課題解決活動への参加」は必須であるといえます。

時間となってしまいましたので、今日お話しさせていただきましたことをまとめます。若者の就職支援で見えてきたこと、ALの導入の背景から見えてきたことをまとめますと、就職困難な若者を創り出したのは、地域コミュニティ衰退による、若者の会話力・主体性等の社会人基礎力低下によるものが見え、それを踏まえて、地域に必要な人材育成を行うためには、地域を担う人材のための環境作り、地域が一体となって取り組むALが必要ということをお客様にお伝えさせていただきました。ご清聴ありがとうございました。

<ニコニコボックス>



●国際ロータリー第2630地区 ガバナーエレクト事務所

劔田 廣喜さん、島 良明さん、伊藤 正隆さん

ガバナーエレクト事務所よりお邪魔いたします。本年度4月の地区協議会、10月の地区大会のお願いに参りました。よろしくお願い致します。

●古橋 直彦さん、遠藤 隆浩さん

①下田 学 様、今日のご講話よろしくお願い致します。

②中央RC劔田廣喜ガバナーエレクト様、島 良明 様、伊藤 正隆 様の御来訪を歓迎いたします。

③新会員 榎坂 純一さん、今後よろしくお願い致します。

●井上 正さん、大村 貴之さん、田近 毅さん、垣内 秀文さん

①下田学さんの御来訪、楽しみにしておりました。本日の卓話どうぞよろしくお願い致します。

②榎坂純一さん、ようこそ高山西ロータリークラブにご入会いただきました。心より歓迎いたします。近い世代の一人として共に活動できるのを楽しみにしています。

●駒手 康介さん

下田 学 様、本日は大変お忙しい中お越しいただきまして本当にありがとうございます。講話のお願いをしておきながらタイミング悪く例会を休んでしまっている事を心からお詫び申し上げます。下田さんの講話が聞けない事も残念でなりません。ご卒よろしくお願い致します。

●榎坂 純一さん

2月5日より新たに入会させていただきます株式会社スカイワールズの榎坂純一です。まだまだ未熟者ですが、末永くよろしくお願い致します。

●阪下 六代さん

①劔田廣喜さん、島 良明さん、伊藤 正隆さんのご来会を歓迎申し上げます。様の御来訪を歓迎いたします。

②榎坂 純一さんの新入会を歓迎・祝福いたします。最年少だと言って委縮することなく、堂々と自由闊達に活動されますように。

●井辺 一章さん、堺 和信さん、伊藤 松寿さん、挾土 貞吉さん、平 義孝さん、田近 毅さん、内田 幸洋さん、住田 泰典さん、田邊 淳さん

・劔田ガバナーエレクト、島地区大会実行委員長、伊藤地区代表幹事の御来訪を歓迎いたします。ご苦労さまです。

・新会員 榎坂 純一さんの入会を大歓迎いたします。今後とも宜しく願い致します。

●小森 丈一さん

①劔田GEご一行様の御来訪を歓迎いたします。いよいよ次年度の行事が動き出しましたね。いずれガバナーを出した際のリハーサルのつもりで勉強させていただきます。

②二カ月続けて『友』の俳壇に載りましたので。

●伊藤 松寿さん

2月3日、洲さき節分会に杉山和宏さんと共に年銀余興で「文七元結」に出演いたしました。私は長兵衛女房お兼で、杉山さんは谷屋若女将お杉という役柄で迷演を披露させていただきました。多数の方に御来場頂き誠にありがとうございました。

●平 義孝さん

先週テレビ朝日「極上旅のすすめ」番組にて、富士山と高山・白川郷「世界遺産対決」で富士山が約10,000票、高山・白川郷が26,000票で勝つことが出来ました。皆様の御協力ありがとうございました。

●鴻野 幸泰さん

本日より復帰させていただきます。皆様方には御迷惑・御心配をおかけしました。これからよろしくお願い致します。

世界へのプレゼントになろう